

東北日日新聞

本紙一月十部
郵政三三三三
廣告料一行三
場所指定三三
發行所 盛岡市
印刷所 盛岡市
電話 二二二二
日新新聞社
盛岡市
電話 二二二二

平區及び支部の ばつ金未納四千圓

納めぬ者は容赦なく服役 係官も整理に大多忙

平區裁判所及支部におよび督促状を發し期限内に完
る現在の罰金未納者は實に納せざる者に對しては容赦
四千圓を突破し從來かつてなく逮捕を出し服役せしむ
なかつた巨額に係員も整理する事となつたが不況の深刻
に大多忙を極めてゐる、これは斯うした地獄の境地に
れを氣永に整理を運んで行も萬んなく行き渡つてゐ
つたなら満期で時効にかゝるにはさすがに所員も舌を
る者も生すべくグツ／＼と巻いてゐる

戸數割減額

前年より一萬餘圓 けふ平均十七圓九十四錢

けふ平均十七圓九十四錢

平町は五年度戸數割減額豫算編成當時から見て三十
決定町會は今二十九日午後九時前年と比較して三十四戸
一時から同町會議室に於ての減、しかし一戸平均額
開かれたが教育費國庫負擔は十七圓九十四錢となり本
金一千九百四十二圓九十錢年豫算額十八圓五十錢から
増額により賦課總額は豫算見ても五十六圓前年賦課額二
額の八萬六千七百六十五圓十圓五十錢から減ると實に
より右國庫負擔額を減じた二圓五十六錢の減である、
八萬四千八百二十二圓十錢が空前の不景氣により町民
で前年の九萬五千五百三十の所得額は非常に減じ總額
圓から見るに實に二割強に二百三十二萬六千九百六十
當る一萬七千九百九十錢の減を三割で前年の二百五十四萬
元せてゐる、次に賦課戸數四千七百七十九圓に比較し約
は四千七百二十七戸で本年一割に當る二十一萬七千二

提出議案

- 一、五年度戸數割減額
決定の件
- 二、平町特別戸數割減例
改正の件(今期戸數
割減率を前年より一
割に減らす)
- 三、寄附採納小學校教員
慰勞金給與(寄附は
第三學校關係、慰勞
は轉退職教員へ)
- 四、區長代理推薦
- 五、追加更正豫算(鎌田
火の見橋改築)

平町役場で 贈答はい止の通達

先づ教員役場吏員から 斷然實行せしむる様に

中元が近づいたのではつば
つ慣例の贈答品が表れたに
就いて例により縣でも生活
改善、緊縮實行、虚禮廢止
と通達をなす模様であるが
これに先立ち平町では
一般に亘る絶對の禁止とし
いふ事は永い間の風習と
れ一朝一夕には實行困難
な事となつた先づせめて
小學校教員及役場吏員た
けは斷然實行せよと
いふ事になり
昨二十八日伏見町長及遠藤
助役は役場員に達した後第
助役は役場員に達した後第
一、二、三の小學校長を招
いて

泥酔して 妻を殴り

平署へ引致さる

石城郡内郷村大字高坂警城
便所内に細紐をつるし、
を遂げた、原因は慢性の子

病氣を苦し 老爺の縊死

自宅前の山林で

石城郡湯本町宇水野谷四二
農鹽崎秀吉(六四)は去る二
十八日午後四時ころ自宅前
山林で縊死を遂げたが原因
は老年の病氣を苦ししたる
結果らしいと

小柳知事 本郡へ出張

徴兵署視察の爲

小柳本縣知事は昨二十八日
午後三時四十五分福高發列
車で石城郡に出張、町住吉
屋本店に宿泊し同二十九日
午前中植田徴兵署を視察し
て同日午後には内郷村昭和館
において開かれる内郷村兒
童後援會總會に臨席し一場
の講演をなし夕刻歸郷した

破産事件

來月卅日迄猶豫

石城郡湯本町の區有財産一
萬四千五百圓預金不拂ひに
より提起した平町警越銀行
に對する破産申請の公判は
同會社では相當な慰藉金を
支給する筈である

しんぶんの新聞
二十八日午前一時から
日本銀行に於いて、有力
なる銀行家と、こんだん
をとり上げた井上蔵相、これ
で財界安定したやうなお
顔、さて議會、會合五時
間の長い會見を重要性を
ふくむやうな宣傳である
が、晝食一時間、休憩と
葉巻と、涼しい飲みもの
と漫談と、夕食の打合せ
との時間亂費合計四時間
餘を差引けば、残高いく
らである。
その根生から直して出直
をさなくては、合理化も
緊縮政策も、救済も、財
二十七日後飲酒泥酔し内
縁の妻加藤さき(二七)を新
刺を以て頭部を殴打全治一
週間の傷を負はせたので二
十八日平署へ引致され取調
中

界安定もできるもんか。
血と、汗と、涙との結晶
した愛國心から出發しな
くては到底、湯の中での
屁話したよ。
不景氣の深刻化につれて
事業家それ自身が、苦し
まざれに攻勢に出てゐる
結果が、驚くべき数字に
達する労働争議の激増で
あるが、それが内務省の
統計以上に、實相は戦國
的であり、悪化してゐる
吾人は黙して語るの自由
を有せざれど、争議それ
自体が〇〇の前哨戦であ
ることを意識してゐると
すれば由々々しき國家の一
宮病からだ

犠牲者絶命

瓦斯爆發の

相當慰藉金支給
石城郡警崎村藤原炭礦左八
坑内で去る二十五日午後七
時ころ瓦斯爆發し作業中の
火藥係片寄勝之丞(三五)坑
夫金在 (四二)同光山金正
(四一)の三名は全身黒焦げ
となり頻死の火傷を負ひ同
礦病院へ入院治療中であつ
たことは既報したが右三名
は手當のかひなく二十七日
午後四時遂に死亡したは
同會社では相當な慰藉金を
支給する筈である

破産事件

來月卅日迄猶豫

石城郡湯本町の區有財産一
萬四千五百圓預金不拂ひに
より提起した平町警越銀行
に對する破産申請の公判は
同會社では相當な慰藉金を
支給する筈である

破産事件

來月卅日迄猶豫

石城郡湯本町の區有財産一
萬四千五百圓預金不拂ひに
より提起した平町警越銀行
に對する破産申請の公判は
同會社では相當な慰藉金を
支給する筈である

犯人と判明した。

それも、これも貧乏から
でござる。
過般來から戰艦準備をと
のへてゐた無線電信技
師賃金問題が、いよいよ
交渉決裂して、さし、
下船、これが高級船員の
最初の争議である。
これからは、各層へ惹起
するであらう。

不景氣の世相に憂慮した

貴院の公正會で、この責
任は現内閣の負ふべきも
のであり、この救済は政
府の執るべき當然の仕事
である。

レポ

- ▲佐久間氏榮轉、平署特高
主任警部補佐久間正美氏は
縣高等課次席に榮轉、來る
二日午前八時平發列車で赴
任する筈
- ▲父兄懇話會、平第三小學
校父兄懇話會は二十六日正
午から同校に開かれた
- ▲二次家調、石城郡二
次家調委員會は來る七月一
日より四日間平町各種團體
事務所樓上で開催されるが
當日は岸田主事來會する筈
- ▲詩南車新刊、平町五丁目
二八片寄歌二氏方同社より
發行された文藝雜誌「詩南
車」は島田忠夫、高久晚霞
氏等外同人の輝かしい力作
が盛り込まれてゐる、因みに頒
價は十五錢である

破産事件

來月卅日迄猶豫

石城郡湯本町の區有財産一
萬四千五百圓預金不拂ひに
より提起した平町警越銀行
に對する破産申請の公判は
同會社では相當な慰藉金を
支給する筈である

破産事件

來月卅日迄猶豫

石城郡湯本町の區有財産一
萬四千五百圓預金不拂ひに
より提起した平町警越銀行
に對する破産申請の公判は
同會社では相當な慰藉金を
支給する筈である

肺病肋膜の奇妙薬
新劑スーパ 錠錠三十日分七圓
 一度の實驗は百聞に優る

特約店 **山野邊藥局**
 平町五丁目角

オートバイ
自轉車商
部分品

織田自轉車店
 電話五三三番

◆現代醫藥界ノ驚異

飲マズニ治ルコリサ浸透療法
 肺、ロクマク、腹膜炎、リウマチス、神經痛治療薬
外用コリサ

○論より證據百聞一見に不如
 醫學博士：内野先生實驗 醫師：吉松先生發見
 定價：金四拾五錢、金九拾錢 送料：内地十二錢
 一特大瓶醫家用：二圓七十錢 海外四十五錢

平町一丁目

特約店 **大平屋藥舖**
 電話六四二番

回實感希望者は郵券廿錢封入左記本舖へ申込あれ
 試用薬と浸透療法の小冊子を郵送す
 大阪市此花區吉野町一丁目 吉松醫院製劑部

口腔齒科治療

平町土橋通り
原齒科醫院
 電話二二一番

電話番号が變りました

電話八百六十番

新田町 **青柳**

豫告

目に青葉

食通の好季節
 樽詰生ビール
ソータフアンテン 近日開設
 尙店舗の内容完備致しました
 新郵便局裏
 高級食道 **ボタン**

電話八五四番

暑い暑い

いや暑いこまねー
 皆さん行きましようヨ

平町二丁目

藤市

あづきアイス 五錢
 アイスクリーム 十錢
 氷セイキ水 十五錢
 ミルクセイキ 二十錢
 氷 四錢
 水 八錢
 同いちご 八錢
 同れもん 八錢
 同ぶどうし 八錢
 水あづき 十錢
 同しら玉 十錢
 同玉子水 十五錢
 同ラムネ 十錢
 出前は早く届けます
 御注文は電話
三〇五番

タクシーの御用命は

新らしく氣持ちのよい

昭和タクシーへ

電話三四三番
 サシミ

移轉廣告

店舗改築中三丁目横町藤市蒲鉾店向へ一時移
 轉致しました

移轉中大特賣

夏トンビ レンコート 合着セビロ：大見切
 作業ズボン 五十五錢
 小學生通學服 七十五錢
 夏トンビ 四十五錢
 黒セル上着 四十五錢
 ネズミセル上着 三十五錢
 男女ゴム引マント 一圓八十錢
 平町三丁目(佐川洋服店横)

假營業所 **正札堂洋服店**
 電話四三六番

淋病と消渴

と云ふ最新藥の服用をお勧め
 致します 胃腸を害さず
 さゝめの良き事すでに服藥者
 の言により明かです

濟淋

四日分金壹圓 八日分金壹圓八十錢

製造發賣元 **水野藥局**

現代に於ける此の進歩せる療法を一度
 お試し下さい

耳鼻咽喉科 專門
 氣管食道科

平町南町

大和田醫院

電話一七〇番

入院隨意

大眾向音樂の寶庫



七月の新譜發賣
 獨逸バルロ
 フォンレコード
 特別發賣特製アルバム添附

新小唄 吾妻小唄 北村猛子
 小唄 赤坂小唄 三味線 玉川喜代
 新小唄 隅田川小唄 三味線 尾登太夫
 新民謡 會津音頭 新内 尾登太夫
 新内 花井お梅 四面 三味線 尾登太夫
 錦心流琵琶 廣瀬中佐 四面 三味線 尾登太夫
 八木節 佐倉宗五郎 池田源三
 會津盆踊うた 他 池田源三
 相馬搦麥甚句 尺八 安宅榮子
 黄海海軍行進曲 大日本帝國軍樂隊
 告別行進曲 佐藤樂長指揮
 愛國心行進曲 全
 吹奏樂 相馬搦麥甚句 尺八 安宅榮子
 落語 二慶 太平記 四面 柳村重松
 浪花節 鹽原 太助 四面 東家虎造
 全 次郎長傳の内 森の石松 四面 東家虎造
 全 太郎やい 東家虎造



コロムビア
 ビクター
 パルロフォン

販賣所
三幸堂

平町二丁目